

# 文の京 ふみやこ ゆかりの 文化人

令和4年に記念の年を迎える主なゆかりの文化人

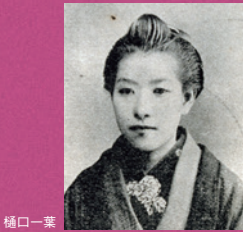
- 芥川龍之介 ――― 小説家 [1892-1927]生誕130年
- 石川啄木 ― 歌人・詩人・小説家 [1886-1912]没後110年
- 伊藤晴雨 ――― 日本画家 [1882-1961]生誕140年
- 小川笙船 ――― 医師 [1672-1760]生誕350年
- 川端康成 ――― 小説家 [1899-1972]没後 50年
- 北原白秋 ――― 詩人・童謡作家 [1885-1942]没後 80年
- 金田一京助 ―言語学者・アイヌ語学者 [1882-1971]生誕140年
- 久米正雄 ――― 小説家・劇作家 [1891-1952]没後 70年
- 呉秀三 ――― 精神病医師・医史学者 [1865-1932]没後 90年
- 西条八十 ――― 詩人 [1892-1970]生誕130年
- 佐佐木信綱 ――― 歌人・国文学者 [1872-1963]生誕150年
- 佐藤春夫 ――― 詩人・小説家 [1892-1964]生誕130年
- 島崎藤村 ――― 詩人・小説家 [1872-1943]生誕150年
- 瀬戸内寂聴 ――― 小説家・尼僧 [1922-2021]生誕100年
- 高村光雲 ――― 彫刻家 [1852-1934]生誕170年
- 高村豊周 ――― 鑄金家 [1890-1972]没後 50年
- 武田五一 ――― 建築家 [1872-1938]生誕150年
- 新渡戸稲造 ――― 農学者・教育者 [1862-1933]生誕160年
- 野口雨情 ――― 詩人・作詞家 [1882-1945]生誕140年
- 萩原朔太郎 ――― 詩人 [1886-1942]没後 80年
- 長谷川泰 ――― 医学者・政治家 [1842-1912]生誕180年  
没後110年
- 樋口一葉 ――― 小説家・歌人 [1872-1896]生誕150年
- 弘田龍太郎 ――― 作曲家 [1892-1952]生誕130年  
没後 70年
- 堀口大学 ――― 詩人・翻訳家 [1892-1981]生誕130年
- 正岡子規 ――― 俳人・歌人 [1867-1902]没後120年
- 室生犀星 ――― 詩人・小説家 [1889-1962]没後 60年
- 森鷗外 ― 軍医・小説家・評論家 [1862-1922]生誕160年  
没後100年
- 吉本隆明 ――― 詩人・評論家 [1924-2012]没後 10年
- 渡辺茂 ――― 作曲家 [1912-2002]生誕110年  
没後 20年

森鷗外をはじめとする、さまざまな分野の文化人が足跡を残した地・文京。

その代表的な文化人を顕彰し、文京区の多様な文化的資源を広く発信します。

今年度は、樋口一葉(生誕150年)、森鷗外(生誕160年・没後100年)、

石川啄木(没後110年)を中心に、さまざまな顕彰事業を実施します。



樋口一葉



森鷗外



石川啄木

## 文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内・参加者募集

### ●森鷗外記念館

#### 特別展「読み継がれる鷗外」

鷗外を敬愛する小説家・平野啓一郎氏が選出した作家や研究者ら8人とともに、鷗外文学の魅力を読み解きます。鷗外を尊敬した明治・大正・昭和の作家や、鷗外訳「即興詩人」が現代まで読み継がれてきた変遷も紹介します。

会 期：開催中～7月31日(日) 休館日：7/26  
観覧料：600円(20人以上の団体480円)

#### 7月9日(土)は鷗外忌

- 鷗外没後100年を記念して開館時間延長(9時～20時)。
- 当日は展覧会を観覧された方に鷗外没後100年記念シールをプレゼント。
- 文京区在住、在勤、在学の方は、展覧会を無料でご観覧できます。  
※住所が記載されているもの(保険証、免許証、社員証、学生証など)要提示。

#### コレクション展「鷗外の東京の住まい」

10歳で上京した鷗外の東京における住まいを辿るとともに、鷗外が30年間暮らした観潮楼(現・文京区立森鷗外記念館)の現在までの変遷を紹介します。

会 期：令和4年8月5日(金)～10月16日(日) 休館日：8/22・23、9/26・27  
観覧料：300円(20人以上の団体240円)

#### 特別展「鷗外遺産(仮)」

開館10周年を記念し、その間に収集した新収蔵資料や他館所蔵資料など、鷗外遺産が観潮楼に集合。鷗外資料を通して、鷗外の人生の諸相を紹介します。

会 期：令和4年10月22日(土)～令和5年1月29日(日)  
休館日：10/25、11/22、12/27・28、12/29～1/4(年末年始)、1/23・24  
観覧料：600円(20人以上の団体480円)

※11月1日(火)の開館記念日は、展覧会観覧者全員にポストカードをプレゼント。



問合せ：文京区立森鷗外記念館  
〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4  
TEL 03-3824-5511  
https://moriogai-kinenkan.jp  
開館時間：10時～18時(最終入館17時30分)  
※中学生以下、障害者手帳提示の方と介護者1人は観覧料無料

#### ※ふるさと歴史館・森鷗外記念館 相互割引のお知らせ(入館1回につき1回限り)

- 歴史館入館券、友の会会員証、歴史館ハンフレット(押印あり)提示  
→森鷗外記念館観覧料が2割引
- 森鷗外記念館入館券、鷗外バス提示 →歴史館の入館料が団体料金適用

※森鷗外没後100年記念事業\*【文京区内商店街灯フラッグ】(令和4年12月まで)  
都立芸高等学校の生徒さんに制作いただいたデザインのフラッグを文京区内の商店街灯に掲出しています。  
文京区コミュニティバス[B-ぐるラッピングバス]千駄木・駒込ルート(令和4年12月まで)  
都立芸高等学校の生徒さんデザインのロゴマークのラッピングバスを運行しています。



森鷗外 没後100年

#### 令和4年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

令和4年(2022)7月1日発行

編集・発行：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課  
文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221  
https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/

印刷物番号 D0122002



## 文の京ゆかりの文化人関連施設

- 樋口一葉 ■旧伊勢屋質店(菊坂跡見塾)  
文京区本郷5-9-4  
管理者連絡先: 跡見学園女子大学 TEL 03-3941-7420
- 台東区立一葉記念館  
台東区竜泉3-18-4 TEL 03-3873-0004
- 森 鷗外 ■文京区立本郷図書館(森鷗外コーナー)  
文京区千駄木3-2-6 TEL 03-3828-2070
- 森鷗外記念館・森鷗外旧宅  
島根県鹿足郡津和野町町田イ238 TEL 0856-72-3210
- 北九州市立文学館  
福岡県北九州市小倉北区城内4-1 TEL 093-571-1505
- 森鷗外旧居  
福岡県北九州市小倉北区鍛冶町1-7-2 TEL 093-531-1604
- 石川啄木 ■石川啄木終焉の地歌碑・顕彰室  
文京区小石川5-11-8  
連絡先: 文京区アカデミー推進課観光担当 TEL 03-5803-1174
- 文京区立小石川図書館(石川啄木コーナー)  
文京区小石川5-9-20 TEL 03-3814-6745
- 石川啄木記念館  
岩手県盛岡市渋民字渋民9 TEL 019-683-2315
- 啄木新婚の家  
岩手県盛岡市中央通3-17-18 TEL 019-624-2193
- もりおか啄木・賢治青春館  
岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-25 TEL 019-604-8900

※関連施設の開館状況や、利用等に関するお問い合わせは、それぞれの施設にお尋ねください。

## 文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内・参加者募集

### ●文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

#### 歴史講演会

文京ゆかりの文化人に関する講演会を予定しております。区報等で募集します。

#### 史跡めぐり「文化人ゆかりの地をめぐる(仮)」

日時・ルート等が決まりましたら、区報等で募集します。

#### 特別展「小石川植物園異聞―白山御殿跡いま・むかし―(仮)」

国指定名勝及び史跡である「東京大学大学院理学系研究科附属植物園」の歴史や文化を紹介します。

会 期：令和4年10月29日(土)～12月11日(日)  
会 場：文京ふるさと歴史館 地下1階企画展示室  
入場料：100円(20人以上の団体70円)

※11月3日(木・祝)は無料公開日

#### 朗読コンテスト(主催:文京区 主管:跡見学園女子大学)

日 時：令和4年11月13日(日)13時～16時  
会 場：跡見学園女子大学プロッサムホール(文京区大塚1-5-2)  
参加者・観覧者募集の方法等は、ホームページ等でお知らせします。

問合せ：文京ふるさと歴史館  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29  
TEL 03-3818-7221  
開館時館：10時～17時  
休 館 日：月曜(祝日の場合は翌日)、第4火曜日(7/26、8/23、11/22、2/22は開館)、  
12/27～1/4  
※中学生以下・65歳以上・友の会会員、身体障害者手帳等提示の方と介護者1人は入館料無料

### ●(公財)文京アカデミー

#### シビックシネマサロン「にぎりえ」

問合せ：(公財)文京アカデミー学習推進係  
〒112-8555  
東京都文京区春日1-16-21  
TEL 03-5803-1119

日 時：令和4年11月18日(金)13時30分～  
場 所：アカデミー文京レクリエーションホール  
財団広報紙「スクエア」等で募集します。

※新型コロナウイルスの感染状況により、掲載内容は変更、中止、延期になる可能性があります。  
最新情報は、ホームページ・区報にてお知らせします。

生誕150年

# 樋口一葉

【ひぐち・いちよう】(1872~1896)  
小説家・歌人



樋口一葉

東京府第二大区一小区内幸町一丁目一番屋敷(現・千代田区)生まれ。本名・奈津(なつ、なつ子、夏、夏子とも称す)。明治19年(1886)、小石川区水道町(現・春日1)の中島歌子の歌塾萩の舎に入り、和歌や書道を学びました。代表作に「たけくらべ」「にごりえ」などがあります。

幼少期には、法真寺の門前にあたる東京府第四大区七小区本郷六丁目5番地(現・本郷5)に居住し、私立吉川学校などに通いました。幼少期に住んだこの家を、後年一葉は「桜木の宿」とよんで懐かしんでいます。

## ●作家として始動した町

明治23年5月、前年に父を失った一葉は、萩の舎の内弟子となって塾に寄宿しましたが、9月に母と妹ともに独立して本郷区菊坂町70(現・本郷4)に住みました。明治25年には、はす向かいにあたる同区菊坂町69(現・本郷4)に移っています。同年には、『武蔵野』創刊号に「闇桜」が掲載され、作家としてのデビューを飾りました。その後、『甲陽新報』に「経つくえ」を連載、『都の花』に「うもれ木」が掲載されました。やがて一葉は「糊口の文学」(「にっ記」より)からの離脱を求め、明治26年に下谷区竜泉寺町(現・台東区)に転居します。菊坂通りには、この頃から一葉が通うようになった伊勢屋質店(現・跡見学園女子大学「菊坂跡見塾」)の建物が現存しています。



旧伊勢屋質店 現状  
(文京区指定有形文化財)

## ●終焉の地

明治27年、一葉は執筆活動に専念するために竜泉寺町の駄菓子屋を閉め、本郷区丸山福山町4(現・西片1)に転居しました。一葉が住んでいた当時、隣接する丸山福山町3番地には、後年雑誌『スバル』の編集をおこなった江南文三が住み、誠之小学校に通っていました。ここで一葉は、「大つごもり」「たけくらべ」「にごりえ」などの代表作を発表しています。一葉のもとには、馬場孤蝶、平田秃木、川上眉山、上田敏、島崎藤村など、多くの若手文学者が訪れるようになったと伝えられているほか、雑誌『めざまし草』上で森鷗外、幸田露伴、斎藤緑雨が担当した批評「三人冗語」に、一葉を加えて「四つ手あみ」とする案も出ていたそうです。しかし、明治29年初頭に肺結核の症状をみせた一葉は、療養の甲斐なく、11月23日に丸山福山町の自宅で亡くなりました。現在終焉の地附近には、「一葉 樋口夏子碑」が建てられています。



樋口一葉終焉の地(現状)



一葉 樋口夏子碑パンフレット  
(笹井誠一氏 作製)

## 文京区とのゆかり年表

年	年齢	事項	
明治9年	1876	3歳	本郷六丁目桜木の宿に転居
明治10年	1877	4歳	公立本郷学校に入学、年少を理由に1ヶ月で退学し、私立吉川学校に入学
明治19年	1886	14歳	歌塾萩の舎に入塾
明治23年	1890	17歳	菊坂町70に転居
明治25年	1892	19歳	『武蔵野』に「闇桜」が掲載され作家デビュー、菊坂町69に転居
明治27年	1894	21歳	本郷区丸山福山町4に転居
明治29年	1896	24歳	病没

生誕160年・没後100年

# 森鷗外

【もり・おうがい】(1862~1922)  
軍医・小説家・評論家



森鷗外

石見国鹿足郡津和野町(現・鳥根県津和野町)生まれ。本名・林太郎。文京区域には、本郷本富士町(現・本郷7)の医学校寄宿舎をはじめ、本郷龍岡町(現・湯島4)の下宿、後年夏目漱石も暮らし通称“猫の家”と言われる駒込千駄木町57番地(現・向丘2)の家、また明治25年からは駒込千駄木町21番地(現・千駄木1)のいわゆる“観潮楼”に暮らし、そこで終生を過ごします。「雁」「青年」「鼠坂」ほか、文京を舞台にした作品も多数あります。

没後110年

# 石川啄木

【いしかわ・たくぼく】(1886~1912)  
歌人・詩人・小説家



石川啄木

岩手県南岩手郡日戸区(現・盛岡市)生まれ。本名・<sup>はじめ</sup>一。いく度かの上京・帰郷、北海道各地への移転をくりかえすなかで、文京区域には、小日向台町(現・音羽1)をはじめ、向ヶ岡弥生町(現・弥生)、本郷菊坂町(現・本郷5)、本郷森川町(現・本郷6)、本郷弓町(現・本郷2)で暮らし、小石川久堅町(現・小石川5)で終焉を迎えます。啄木の作品や日記には、文京の地が多く登場します。